

#ここから! キャリアのヒント

日本女性学習財団では、女性のエンパワーメントをめざし、生涯にわたるキャリアデザインを男女共同参画の視点で支援する方を「(公財)日本女性学習財団キャリア支援デザイナー」として養成し、活動を支援しています。このコーナーでは、各地で活動するキャリア支援デザイナーが、キャリア形成や学びのヒントを発信します。



Vol.61 小さな声も届く世の中へ

私は富山県で未就学児向けの子育て情報誌「はっぴーママ富山版」のゼネラルマネージャー (GM) をしています。「はっぴーママ富山版」は富山県で2003年から発行されており、富山県内のすべての市町村の子ども課や保育園など、子育てにかかわる場所で配られているフリー雑誌です。

富山県は製造業が多い地方です。3世帯同居が多く、女性が働き者の地域と言われています。結婚や出産、子育てをしながら働いている女性が多い一方で、管理職の女性の割合が極端に低いです。「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方が今でもあり、女性自身にも家庭を守らねばという役割意識があるため、責任のある役職を受けたがらない傾向にあります。働くママだけに家事や育児、介護の負担が増えているようにも思います。その負担を減らすためにもパパである男性が家事育児にも積極的になってくれることが大事です。企業側からも働きかけ、男性にも家庭の行事や役目を果たすように導いてほしいです。

若い女性たちが富山県を離れてしまうことが、富山県の少子高齢化を助長していくとされています。どんなライフプランを選んだとしても富山県に住んでよかったと思ってもらえるように、少しでも女性たちが暮らしやすい世の中になるような活動をしていきたいです。

今、私が活動しているものは2つあります。ひとつは防災教育です。能登半島地震を契機に県内各地で「ママと語ろう防災カフェ」を開催しています。講座では、避難所運営をする中で女性の視点や多様な人たちの意見を



防災カフェの様子

取り入れることの大事さを紹介しています。もうひとつは富山子育てネットワークの運営です。富山県内で子育てに関連する支援団体が協力し、情報交換と連携をしています。

私の力は小さいですが、少数派と言われるような小さな声も届く世の中になるよう声を集めていければと思っています。

うちやま まりこ
内山 真理子 (第11期、富山県) (有) 青青編集はっぴーママ編集部 GM、富山県防災士会防災士、富山子育てネットワーク理事、富山県地球温暖化防止推進員。

おすすめの本 『庭に小さなカフェをつくったら、みんなの居場所になった。つなげる×つながる ごちゃまぜカフェ』(ぶどう社、2019)。悩んだママが相談に行ったり、不登校の子どもたちが働いていた。さまざまな人が集う富山県砺波市にあるカフェの物語。



きょうのキーワード にじいる防災ガイド

“災害があってもだれもが尊厳をもって生きのびられるように”と掲げ、性的マイノリティの人たちの困りごとや必要なことを見える化し、対応を示したガイド。東日本大震災以降、セクシュアルマイノリティと災害について知見を深めてきた「岩手レインボー・ネットワーク」が作成した。「発災直後・避難期」、「復旧・復興期」と段階ごとに、困りごとと対応策を図表にし、言語は日本語と英語が使用されている。一例として「避難所で記入を求められた名簿に性

別を選択する欄があり、戸籍の性別を書くべきか性別自認を書いてよいのか考えてしまう。選択欄は精神的に苦痛」という困りごとに対し、対応策の提案として「避難順に一覧表への記入ではなく、個別に記入できるように用意しておく、性別欄は任意や自由記述にする」と示している。ほかにも、男女別になっている支援物資を渡すときの工夫や、同性カップルの仮設住宅への入居時対応なども書き込まれている。